

# 序

いやはやもう Step Beyond Resident も 7 巻に突入です。全巻そろえた奇特な方はもちろん、今回初めて購入された方も皆様どうもありがとうございます。感謝感激雨あられ。まだ全巻購入されていない方は書店へお急ぎください。ま、売切れたりはしませんけどね。

思い起こせば10余年前、後期研修医を対象にしたエビデンスを紹介する（ひけらかす？）情報満載の本（ウンチク本？）を書きはじめ、めざすは最新情報誌だったのですが、如何せん一人でやるとどうしても限界があるもの…ありゃりゃ、すべて網羅するにはあと100年はかかりそうな勢いになってまいりました。（大丈夫、尊敬する〇〇先生は100歳超えてますから。）

エビデンス、エビデンスとのたまいつつ、世の中には論文にさえなればエビデンスと勘違いする輩がいるよねえ（もちろん、あなたではありませんよ）。エビデンスなんてたかが数値、臨床的に意味がないとダメじゃん！エビデンスはある・なしではなく、どう解釈して臨床応用していくかが本当は大事なのに、そこをうまく切り込んだ情報源ってなかなかないよねえ。論文って鵜呑みにしちゃダメなんだよ。つい包括的になりがちなガイドラインをつくる側のつらさも理解してあげたうえでガイドラインを読まないで、無駄な検査が増えすぎてしまうんだ。

臨床医学は確率の science であり art である。この曖昧模糊とした不確実性を包括して辛抱強く対応する能力がないといけない。裁判だとすぐに白か黒か決めつけたがるけど、後ろ向きの評価は未来の医療を改善するためのものであって、後ろ向きに裁判をして「たら、れば」の世界で医者をつぶした切った日には、もう臨床家はいなくなってしまう。そう医学は不確実なのだ。ただその医学の不確実性や臨床の機微を包括しつつ、最新の知見がうまくこの Step Beyond Resident で伝えられたらと願ってやまない。ハヤシ節の傍若無人な解釈、試験対策かと思われるような無理矢理横車の覚え方 mnemonics も相変わらず好きに紹介させていただいているが、おやじギャグはご愛嬌ってことで…。

“Happiness is giving it away！”自分の得た知識は惜しみなく後輩たちに伝えてあげよう。自分たちの得た技術は惜しみなく患者に提供しよう。そうすることがわれわれ医者の happiness になるのだから。

凸凹上等！草食系 ER 総診の悪の軍団員募集中…！♪

## 本書の正しい使い方

- ・ ついでにSBRの①～⑥を買いそろえて、本棚に並べて満足する
- ・ トイレに一冊、枕元に一冊、念のため買って置く…念のためだからネ
- ・ 「医局に一冊、外来に一冊買ってください」と研修委員長または院長におねだりする（ついでに病院のことをしっかりほめておく）
- ・ イオン飲料を飲みながら、電解質のウンチクを垂れる
- ・ 本書を読んでエコー大好き人間になる（エコープローベもきちんと拭き、コード類は必ず踏まないように心がける）
- ・ 本書を読んでCTのウンチクを人に嫌われない程度に語る
- ・ SBR①～⑦を並べてドミノ倒しのギネス記録に挑戦する
- ・ ラミネート加工で勉強会資料を作成したときの重しにする
- ・ 専門医試験の前に枕の下にひいて寝る（…きっとご利益があるはず…）
- ・ 友人の結婚式に持って行くご祝儀袋が曲がらないように本書に挟んで持って行く
- ・ かわいい（格好いい）後輩が「その本欲しいです」と言ったら、惜しげもなく本をあげる
- ・ 初期研修医が読もうとしたら、「それはポストレジデントのネタ本だから読んじゃダメだよ」と優しく教えてあげる。「初期研修医がそんなこと知ってたら、ポストレジデントが困るだろうが、このボ○！」とは心の中で一回だけ叫んでよい
- ・ 初期研修医が読んでいたら、横で先にウンチクネタをばらして読む気をそくようにする（推理ものじゃないけどね）
- ・ 初期研修医が読んでいたら、大事なところはラインマーカーで親切にたくさん線を引いておいてあげる（いや、迷惑だって！）
- ・ 文献の読み捨て方、解釈のしかた、リソースの探し方を勉強したくなったら、荷物をまとめて福井まで来る（彼女や彼氏が同意しない場合は却下！ やっぱりワークライフバランスが大事！）
- ・ シャインシャインと自炊（pdf化）している人を見つけたら、「そんなことをすると本が泣くよ」と言ってあげる
- ・ シャインシャインと自炊（pdf化）している人を見つけたら、「どうせpdfにすると読まないんだから、書籍で読んだ方がいいよ」と教えてあげる
- ・ シャインシャインと自炊（pdf化）して友人にあげるよという優しい人がいたら…いやいや違法だって…
- ・ 「SBRの①、②巻あたりを早く改訂してよ」と応援メールを送る
- ・ ERアップデート（<http://snudge-lab.com/>）に本書を持参し、筆者にサインしてもらいつつ、涙声で「ありがとうございます」と言わせる

いつも拙文を社運をかけて（かけてないって）書籍にしてくださる羊土社の面々に感謝いたします。本書作成の労がたたって骨折した編集者の田○さん、お大事に…。

平成26年3月吉日 近年ないくらい北陸に雪の少ない冬の終わりに…

林 寛之